

## 館山市の災害対応に関する検証

令和2年1月6日

館山市議会議員 石井敏宏

安全対策	<ul style="list-style-type: none"><li>●事前防災は台風19号の時の対応を15号の時にできれば良かった。</li><li>●道路に倒れてきそうな木は速やかに伐採すること。</li><li>●民有地の倒木処理は、南房総市が補助金を出しているように何らかの行政支援が欲しい。重機の無償貸し出しでも良い。</li><li>●「隣の空き家が危険」という問題は、行政による法令に基づいた対応は緊急時には無理なので、速やかに弁護士の無料相談窓口を案内すべきだ。</li><li>●消防団は十分な対応をしてくれたが、過度に依存するのは団員にとって負担が大きいので無理があると思う。</li></ul>
インフラ復旧	<ul style="list-style-type: none"><li>●市役所が2日間停電したために初動が悪く復旧が遅れる原因となった。市役所が停電しない対策を取って欲しい。また、停電が直らない場合の復旧活動のやり方も今後のノウハウとして記録を残してもらいたい。</li><li>●三中校舎は専門家による耐震診断を行わなければ、生徒・保護者の不安はなくならないと思う。</li><li>●給食センター、三中校舎を始め、老朽化施設に大きな損壊が目立った。老朽化施設の更新は予算の優先度が高いと思う。</li></ul>
教育	<ul style="list-style-type: none"><li>●10月25日豪雨の対応だが、全市避難勧告が出た時点で全ての学校活動を停止すべきだった。そして、安全に帰れる子は帰し、学校にいた方が安全な子は2階以上で待機するなどの対応が必要だった。くれぐれも、雨がひどく川が氾濫している時に子どもを帰すようなことはしないでほしい。</li><li>●東日本大震災の時に、給食センターが被災した事例を参考にすべきだ。陸前高田市などは仕出し弁当で対応していた。</li></ul>

<p>ゴミ処理</p>	<p>●9月半ばの回覧文であるが、非常にわかりづらい。「戸別回収はしてくれるのか?」「通常のごみステーションに出せるのか?」「出せない品目はあるのか?」「具体的にどう分別するのか?」「災害ごみ袋には具体的に何を入れていいのか?」など、要はどうすればいいのか、改めて読んでもよくわからない。読み手を意識して書いていないし、現場感覚もない文章だ。</p> <p>また、わからないという指摘が出ている以上、再度、イラストを入れるなど手直ししたものを回覧すべきであった。</p> <p>●地区住民で分別していた一時仮置場だが、市が回収するというのは無理があった。基本的に出野尾への自己搬入にすべきであった。</p> <p>●市の仮置き場（出野尾）での昼の1時間休憩は、ボランティア等の作業の流れを著しく非効率にした。9時開始ではなく10時開始でいいので、昼休憩は交代で取って欲しい。</p> <p>●災害ごみの搬出ボランティアをしていた感覚だと、仮置き場への搬入期限は11月15日くらいが妥当であった。そして、11月1日の回覧に文書で終わりの期限を周知すべきであった。</p> <p>●南房総市も鋸南町も搬入期限を現場感覚で延長をしていた。館山市は延長がなかったが、硬直的で融通の利かない対応であった。被災者視点が欠けている。</p> <p>●搬入期限が終わる前に、次はどのように受け入れるか決めておくべきだった。罹災証明提示のうえ、家電等の一部品目を除く形にすれば良かった。瓦などの処理困難物は引き受けるべきだ。</p> <p>●ボランティアセンターとごみについての情報共有ができていなかった。また、がれき撤去がメインであるボランティアセンターは、災害ごみ引き受けが終わると活動に支障をきたす。ブルーシート張り等の屋根作業も下からの支援が必要だ。土のう作りもあるし、がれき撤去のボランティアもこうした後方支援はできる。ゆえに、災害ごみ引き受けが止まると、屋根作業にも悪影響となる。</p> <p>●戸別回収は最初からボランティアセンターに任せるべきものだった。</p>
-------------	---

	<p>●市環境部門による戸別回収は最初から障害者・高齢者などの要支援者と特別な事情がある者のみに限るべきであった。あるいは、これもボランティアセンター業務としても良い。</p>
<p>支援全般</p>	<p>●過去の災害をふりかえると、罹災証明業務は批判を受けやすいものだが、批判は少なかった。公民館での罹災証明の受付、実情に合った判定など罹災証明業務の一連の流れは評価できる。</p> <p>●弁護士会に頼むなど、罹災証明と支援メニューについて説明会をやった方が良い。</p> <p>●アパートの借家人も、被災者生活再建支援金の対象になるわけだが、知らない人が多かった。被災アパートの借家人に対する罹災証明の取得や支援制度の案内をすれば良かった。</p> <p>●自治会と自主防災会は、東日本大震災の時もそうだったが、機能させるのは難しいと思う。自治会はやはり親睦の場であろう。畑地区や富崎地区など、地区全体が危機に陥ったところは機能したが、被災者の割合が少ない地区では当事者意識が出ない。また、近所の仲が悪かった場合は、有事であっても解消されない。</p> <p>●公民館は毎日ではないにしても職員がいて、公民館長もいるので、防災拠点として機能できる。各自治会に期待するより、公民館を支援の拠点として、支援者が集う場所にした方がよい。</p> <p>●市民からは被災した文化財への財政支援が望まれている。</p> <p>●ブルーシートの家は、シートが破れたり、ずれたりするので何度も張り替えが必要だ。また、ブルーシートは台風15号クラスの被災があると逆に凶器と化す。夏の台風シーズンまでにブルーシートの家をなくしたいが、市は未だに何の対策もできていないのが問題。</p>
<p>支援物資</p>	<p>●ブルーシート等の配布方法は概ね正しい。もし、人手があれば「氏名・住所」だけ書いてもらって、過剰に持って行く人に対してけん制効果を出したい。(氏名・住所を書いてもらっても、チェックする人員はいないので、たいした意味はないが)</p> <p>●人によって必要物資の数量が違い、脚が不自由な人の分も</p>

	<p>取りに来ることを推奨している以上、公平性の確保は困難である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ブルーシートは#3000以上（できればシルバーシート#4000）、土のう袋は黒色のUV対応、ひもは農業用マイカ線2本芯入り、という種類にすべきだった。</li> <li>●土のう袋についてだが、「砂は海で取る」「家庭の土を使うな。雑草が生えるから」「割れた瓦を入れるといずれ落ちてきて危険」「白い土のう袋を使うなら、いずれ破れるから、せめて3枚重ね」など、配布者がアドバイスできれば良かったが、当時の状況では難しい。</li> <li>●物資配布は公民館で良かったと思う。</li> <li>●支援物資の市としての受け入れは、保管場所、配り手、市全体のニーズ把握が困難なことから、支援物資の寄付を断ったことがあったと聞く。ただ、その物資を欲しい人もいる。空き公共施設などに置き、自由に持っていけるようにするやり方もある。（岡山県総社市のやり方を参照）</li> </ul>
<p>被害状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●被害状況の把握は早い時点で自治会に、各区民の安否とニーズを取るフォーマットを渡して回覧すべきだったと思う。回覧を回す時に声掛けをするように推奨すればなお良い。</li> <li>●要介護者はケアマネージャーが安否等の対応をしていたようだし、民生委員も個々の活動差はあるにせよ動いていた。ただ、防災部門と福祉部門の縦割り問題もあり、情報集約ができずに漏れが生じた。被災の程度がひどいのに、誰も安否確認に来ないという家もあった。</li> <li>●消防団の家屋の損害調査は有意義であった。</li> </ul>
<p>避難所</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●台風19号の時であるが、避難所が満員で入れなかった場合に、職員が「どこが空いているか」の案内もせず、聞いても答えられない例があった。災害対策本部では各避難所の状況を把握しているのだから、職員は適切な案内をすべきであった。</li> <li>●台風19号の時は、エアコンのある学校を避難所として使うのが望ましかったと思う。多くの避難者を受け入れられるし、洪水があっても、2F以上に垂直避難ができる。ただ、飛来物により窓ガラスが割れるのは注意が必要。</li> </ul>

	<p>●ボランティアの運営スタッフは、避難者からはスタッフなのか分からないので名札を付けるべき。ガムテープにマジックで名前を書くボランティアセンターのやり方でいい。</p> <p>●ペットの避難が可能だったのは地方の小規模自治体としては画期的であった。ただ、それでもペットの避難ができることを知らなかった人、ペットが避難所環境に向かないということで、避難すべきなのに自宅に残った人がいた。</p> <p>ペットの避難方法を確立し、事前にペットの受け入れ可能な避難所を案内できると良い。場合によっては、避難所の駐車場で飼い主と一緒に居てもらうのも手である。</p> <p>特に、岡山県総社市の「同伴避難」を参考にして欲しい。</p> <p>●避難所では身体が耐えられないと、避難すべきなのに自宅に残った高齢者もいた。福祉避難所のさらなる充実と広報をお願いしたい。一般避難所にも福祉的対応のできる職員と設備が欲しい。</p>
防犯対策	<p>●防犯指導員や交通安全協会の動きが見えなかった。</p> <p>●通学時の子どもの見守りのように、防犯ボランティアを組織できないのか。</p> <p>●停電中の信号で交通誘導する人がおらず、警察も手一杯で対応できなかった。</p>
ボランティア	<p>●館山市災害ボランティアセンターなのに、運営を社会福祉協議会に依存し過ぎであった。社協は他の社協から職員派遣を受けていたが、それに加えて市の職員ももっと入るべきだ。</p> <p>●本部運営に現場感覚がない。ボランティアへの指示が被災者のニーズと違っていることが多々あった。これは、本部職員が全く現場でのボランティア経験がないことによると思う。たまには、現場で汗を流し、状況を把握した方が、本部運営にも活きる。</p> <p>●佐倉市、富津市、南房総市では、同一NPO団体によるブルーシート張り講習会を開催していたので、館山市でも早い段階でやるべきであった。そうすれば、はがれづらい適切な張り方がもっと多くの人に普及したであろう。</p> <p>●富津市では、「現状のニーズ数・処理したニーズ数・残っているニーズ数」を毎日、公表していた。これは依頼者や支援者にとって有益な情報であるので館山市も公表すべきだ。</p>

	<p>●ボランティアセンターに地元ボランティアが少なかった。回覧など紙媒体で募集すればもっと人は集まった。また、地元の方は運営スタッフ候補になる。週5以上で終日来れる人はアルバイトとして雇ってもよい。</p> <p>●ボランティアセンターの運営には、人材派遣会社に協力を求めるものありだと思う。</p> <p>●ボランティアは「自己完結」の原則を心得ており、また、変な指示を受けても喧嘩をせずに従う、マナーの良い人が多かった。ただ、受け入れ側としては、なるべくボランティアが活動しやすい環境を整えるようにしたい。</p> <p>また、作業が終わった後は、ボランティアには「風呂に入りたい」という話題が多かったので、南房総市のように入浴無料券を出すと、再び来てくれる可能性が高まると思う。</p> <p>●「関係人口を増やす」ことが市の目標になっているが、遠方からのボランティアは最高の関係人口であることを意識してもらいたい。また、館山市は「市民協働条例」があり、ボランティアは協働の最たるものであり力を入れて欲しい。</p>
<p>仮設住宅等</p>	<p>●最初の時点では仮設住宅が県の管轄だとわからなかった。災害救助法の主体は県であるが、災害救助法など災害法制に精通した職員が数名欲しい。</p> <p>●賃貸型みなし仮設住宅は、被災者が大家からなかなか借りられない状況を理解して、できれば市の支援も欲しい。特に2年後に家賃が払えなくなることを懸念して大家は貸したがらない。また、不動産屋の仲介手数料も相場の半額なので、あっせんの動機が働かない。</p> <p>●昭和56年以前の物件は賃貸型みなし仮設住宅の対象にならないということを知らない被災者もいたので、周知が不十分であった。</p>
<p>産業復興支援</p>	<p>●波左間漁港での浚渫のニーズに市が対応できなかったと聞いた。</p> <p>●観光・商業者支援が貧弱なので、せめて片付け等にボランティアを派遣すべきではなかったか。</p> <p>●観光資源である沖ノ島の倒木を速やか撤去し、通れるようにしたのは良かった。ただ、まだ島内は壊滅的なので、専門家を交えて着実な自然再生に取り組んでももらいたい。</p>

弱者支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>●最初の時点では、「助かれる者から助かれの早い者勝ちの支援」で良いが、途中から「弱者優先」に切り替えるべきだが、いつになっても館山市は切り替わらない。</li> <li>●一度は市内全戸の戸別訪問をした方がいい。留守宅は来たことがわかるように、支援を求める時の連絡先を書いた紙を入れれば良い。</li> <li>●富崎地区は、民間団体によりケアがなされているが、市内各所でまばらにいる被災者への支援が行き届いていない。</li> </ul>
情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>●災害時に最も重要なのは情報である。次に、水・電気・ガスと続く。</li> <li>●回覧など紙媒体での情報提供があまりに少ない。</li> <li>●速報性も考えると、房日新聞と災害協定を結んで、館山市の支援情報スペースをもらったかどうか。</li> <li>●市長はツイッターをやった方がいい。職員だと出して良いかわからない情報や検討材料も独断で速やかに発信できる。また、情報収集の手段としても有益。（誹謗中傷も受けるが、それはやむを得ない。災害時の有益性は抜群なので、やっている首長も多い。）</li> <li>●広報車はもっとゆっくり、時には止まって音声を流して欲しい。</li> <li>●防災無線のバッテリーは予備が欲しい。</li> <li>●停電時に携帯電話会社には移動基地局の要請など速やかな対応を要請して欲しい。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事前防災と復旧は別物。危機管理室は事前防災には詳しいが復旧は苦手のように見受けられた。</li> <li>●市役所の縦割りの弊害を解消するためには、災害対策本部が終了しても、復旧のための会議（仮称・復興支援会議）を週一くらいで開き、課題の共有を行うべきではないか。</li> <li>●防災も復旧も体験がないと身につかない。今から振り返れば、被災自治体への自主的な支援を平時から積極的に行い、経験値を高めておくべきだった。</li> <li>●9月10月は行政関与のイベントの中止が多かったが、それで良いと思う。逆に11月以降は、イベントや企画物を平時と同じようにやろうとして、やり過ぎ。もっと、復旧に注</li> </ul>

力し被災弱者を救うべきだ。なお、子ども関係のイベントは中止にすると、子どものストレスがたまるので注意したい。

●「有事の際は、法律・条例を破れ」「決断は10秒以内で、責任は自分でとる」「公平・平等の原則では誰ひとり助けられない」というのが岡山県総社市の片岡市長の被災時3箇条。判断の基準は「被災者のためになるか否か」とシンプル。

極端な言い方に聞こえるかも知れないが、有事はむしろ、「想定に囚われ過ぎない」「自分で判断して積極的に動け」ということだろうが、館山市にはこの意識が不足していた。（\*出典は『平成30年7月豪雨 災害対応 記憶誌』であるがホームページで公表されているので読んで欲しい）

●「被災者の実情よりも国や県の方針を重視する」「縦割りの非効率さ」「現場感覚のなさ」「市民のためという意識の乏しさ」を感じた。ただ、これは平時からの悪弊であり、普段できていないことは有事でもできない。普段からの意識改革が必要。

●被災前でも正規職員数に約30名の不足があったと思う。普段でも無理している状況では、市民の命がかかった被災時には対応ができない。職員体制の充実を望む。

●保険の加入や内容によって、被災者に生活再建の差が出た。今後は、大地震や津波が心配であるが、地震保険は国の負担割合が多きいので、市としても地震保険の加入は推奨すべきではないか。